

——離散数学とその応用小特集号

(英文論文誌 A) 論文募集——

離散数学とその応用小特集編集委員会

英文論文誌 IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences では、離散数学とその応用小特集号 (Special Section on Discrete Mathematics and Its Applications) を 2013 年 6 月号に掲載します。この小特集号の目的は、今後ますます重要性を高めつつある離散数学とその電子情報工学分野への応用に関連する最新の研究成果を集積することにより、同分野の発展に貢献することです。下記対象分野に関するオリジナルの論文を募集しますので、奮って御投稿下さい。

1. 対象分野

次に挙げる分野及びそれに関連する分野：

- ・アルゴリズム, データ構造, 計算の複雑さ
- ・並列アルゴリズム, 分散アルゴリズム
- ・確率アルゴリズム, 数論アルゴリズム
- ・ペトリネット, 並行システム
- ・量子計算, 量子アルゴリズム, 量子暗号
- ・グラフ, ネットワーク, マトロイド
- ・計算幾何, 計算代数
- ・線形計画, 数値計画
- ・計算生物学, 生物情報学
- ・組合せ最適化
- ・符号理論, 暗号の基礎数論
- ・離散数学の応用
- ・アルゴリズム工学

2. 論文の執筆と取扱い

原則として、PAPER は刷り上がり 8 ページ以内、LETTER は 2 ページ以内とします。論文スタイルなどの詳細については、Information for Authors (http://www.ieice.org/eng/shiori/mokuj_ess.html) を御参照下さい。本小特集号では、論文スタイルから著しく逸脱したものやページ数を超過したものは、そのことを理由に採録しないことがあります。査読後の再提出期間 (通常は 60 日) を短縮する場合があります。採録論文数が多い場合には、一般論文として掲載される場合があります。投稿に際しては、著者のうち少なくとも 1 名は本会会員でなくてはなりません。採録された場合、掲載別刷代をお支払い頂くこととなりますので、あらかじめ御了承下さい。

3. 論文投稿要領

電子投稿のみ受け付けます。以下の手順で御投稿下さい。

手順 1：オンライン投稿システム https://review.ieice.org/regist_e.aspx により、2012 年 9 月 20 日 (木) までに御登録・御投稿下さい。その際、“Type of Issue (Section)/Category of Transactions” の項目で、“[Special-EA] Discrete Mathematics and Its Applications” を選択して下さい。“[Regular-EA] Fundamentals” や他の特集号を選択しないように御注意下さい。初期投稿時に、編集可能な論文本体 (TeX/Word)、図、著者の写真、biography も投稿する必要があります。

手順 2：“Copyright Transfer and Page Charge Agreement” と

“Confirmation Sheet of Manuscript Registration” に必要事項を御記入の上、2012 年 9 月 24 日 (月) までに、下記宛てに電子メール、FAX、郵送のいずれかの手段でお送り下さい。郵送の場合、封筒には「Special Section on DMA」と朱書願います。これらの書類がないと査読が開始されません。

4. 論文投稿締切日 2012 年 9 月 24 日 (月) 必着

5. 原稿送付先及び問合せ先

送付先：古賀久志

〒182-8585 調布市調布ヶ丘 1-5-1

電気通信大学大学院情報システム学研究所

TEL [042] 443-5601, FAX [042] 443-5601

E-mail : koga@is.uec.ac.jp

6. 小特集編集委員会

委員長/ゲストエディタ 古賀久志 (電通大)

幹事 宮野英次 (九工大), 浅野泰仁 (京大)

委員 石井利昌 (北大), 泉 泰介 (名工大), 河内亮周 (東工大), 河村彰星 (東大), 来嶋秀治 (九大), 小柴健史 (埼玉大), 塩浦昭義 (東北大), 渋谷哲朗 (東大), 田岡智志 (広島大), 玉置 卓 (京大), 垂井 淳 (電通大), 西新幹彦 (信州大), 藤澤克樹 (中大), 藤原洋志 (豊橋技科大), 牧野和久 (東大), 水木敬明 (東北大), 森山園子 (東北大), 山崎浩一 (群馬大), Francois Le Gall (東大)

——回路とシステム, コンピュータ技術小特集号

(英文論文誌 A) 論文募集——

回路とシステム, コンピュータ技術小特集編集委員会

回路とシステム, コンピュータ産業におけるアジアの競争力は、ますます大きくなっています。この競争力拡大の源には学術研究があり、その主要な国際会議の一つに電子情報通信学会基礎・境界ソサイエティとアジアの学会が毎年共同開催している International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC) があります。今年も 7 月 15~18 日、札幌市において第 27 回の会議 (ITC-CSCC 2012) が開催されます。

そこで回路とシステム, コンピュータ技術に関する最新の理論や応用を世界に発信することを目的として、フルペーパー論文を募集する小特集 (平成 25 年 6 月) を企画しました。特に ITC-CSCC 2012 や本トピックに関連する電子情報通信学会主催の国際会議・研究会等にて発表したものを更に発展させた論文を歓迎しますが、それらに限定するものではありません。皆様の積極的な御投稿をお願いします。

1. 対象分野

1. 回路とシステム

(1-1) アナログ回路

(1-2) コンピュータ支援設計

(1-3) 高度道路交通システムと技術

(1-4) 線形/非線形システム

(1-5) 医用電子工学と回路

(1-6) RF 回路

(1-7) 半導体素子と技術

(1-8) 電力工学と回路

(1-9) 現代制御

- (1-10) ニューラルネットワーク
- (1-11) VLSI 設計
- (1-12) 検証とテスト
- (1-13) グラフとネットワーク理論
- (1-14) システム設計への形式的アプローチ

2. コンピュータ

- (2-1) 人工知能
- (2-2) バイオコンピューティング
- (2-3) コンピュータシステムと応用
- (2-4) コンピュータビジョン
- (2-5) パターン認識
- (2-6) 画像符号化と解析
- (2-7) 画像処理
- (2-8) インターネット技術と応用
- (2-9) モーション解析
- (2-10) マルチメディアサービスと技術
- (2-11) 物体抽出と技術
- (2-12) セキュリティ
- (2-13) 電子透かし

2. 論文の形式

フルペーパー論文のみ受け付けます。なお論文の標準的な長さは刷り上がり 8 ページです。

3. 論文の執筆と取扱い

- ・通常の英文論文と同一とします。詳細は「投稿のしおり」
http://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_ess.html を御参照下さい。
- ・投稿は電子投稿でのみ受け付けます。登録と投稿は https://review.ieice.org/regist_e.aspx で行えます。なお、登録の際、“Type of Issue (Section)/Category of Transactions” については “[Special-EA] Special Section on Circuit, System, and Computer Technologies” を選択して下さい。 “[Regular-EA]” を選択しないよう御注意願います。また、“Copyright Transfer and Page Charge Agreement” と “Confirmation Sheet of Manuscript Registration” を論文投稿締切日までに下記送付先（幹事）まで E-mail, FAX, 郵送のいずれかの手段でお送り下さい。郵送の場合、封筒には「回路とシステム、コンピュータ技術小特集号」と朱書して下さい。
- ・本小特集号に論文を投稿する場合、著者のうち少なくとも 1 名は電子情報通信学会の会員である必要があります。ただし、招待論文に関してはこの限りではありません。また、全ての著者が会員であることを推奨致します。入会につきましては下記 URL を参照下さい、<http://www.ieice.org/eng/member/OM-appli.html>

4. 論文に不備がある（例えば、論文の長さがフルペーパーとして短すぎる、論文の分野が本小特集号の対象外など）場合、標準的な審査を行わずに返戻することがあります。

5. 査読後の再提出（条件付採録）の期間が通常の 60 日以内よりも短縮する場合がありますので、あらかじめ御了承下さい。採録論文数が多くなった場合には、一部次号に掲載される可能性があります。なお、論文採録の場合は掲載別刷代が必要となります。

6. 論文投稿締切日 平成 24 年 9 月 20 日（木）必着

7. 問合せ先（ゲストエディタ）

葛 崎偉 山口大学教育学部
〒753-8513 山口市吉田 1677-1
TEL [083] 933-5401, FAX [083] 933-5403
E-mail : gqw@yamaguchi-u.ac.jp

8. 送付先（幹事）

山口真悟 山口大学大学院理工学研究科
〒755-8611 宇部市常盤台 2-16-1
TEL [0836] 85-9510, FAX [0836] 85-9501
E-mail : ieice_csct_secretary@ieice.org

9. 小特集編集委員会

ゲストエディタ 葛 崎偉（山口大）

幹事 山口真悟（山口大）

編集委員 名嘉村盛和（琉球大）、伊藤靖朗（広島大）、磯部祥尚（産総研）、太田 淳（愛知県立大）、粕谷英人（愛知県立大）、黒崎正行（九工大）、笹岡直人（鳥取大）、徐 海燕（福岡工大）、肖 業貴（県立広島大）、田岡智志（広島大）、高橋篤司（阪大）、戸川望（早大）、豊嶋伊知郎（東芝）、中静 真（阪大）、仲地孝之（NTT）、中村祐一（NEC）、舟阪淳一（広島市大）、平林 晃（山口大）、松野浩嗣（山口大）、松原行宏（広島市大）、宮本俊幸（阪大）、Dae-Sik Hong (Yonsei Univ., Korea)、HyunWook Park (KAIST, Korea)、Byung-Gook Park (Seoul National Univ., Korea)、Prayoot Akkaraekthalin (KMUTNB, Thailand)、Kosin Chamnongthai (KMUTT, Thailand)、Apinunt Thanachayanont (KMITL, Thailand)、Zuohua Ding (Zhejiang Sci-Tech Univ., China)

——震災復興や新興国の近未来に役立つ 情報ネットワーク技術特集号

（和文論文誌 B）論文募集——

震災復興や新興国の近未来に役立つ
情報ネットワーク技術特集編集委員会

ICT 先進国の日本では、様々な ICT サービスが利用されています。東日本大震災でも、電話に代わりツイッターなどのインターネットを活用した通信の活躍が報じられました。しかし、被災地域ではバックアップを用意した ICT システムでさえ多重故障により通信が途絶しました。直接の被災を免れた ICT 装置も、長時間停電などの影響で動作不能に陥りました。このため、災害対策や復興に向けた ICT 研究開発は重要課題と認識されています。また、最近海外でも多くの災害が報じられており、通信サービスも含めた BCP（事業継続プラン）への注目度が高まっています。新興国の辺境地域などでは、安定した通信サービスの提供自体が大きな課題となっています。

このような背景から、省電力技術や高信頼技術にとどまらず、新たな通信アプリケーション技術やソーシャルネットワーク技術なども含めた幅広いテーマで情報ネットワーク技術の研究結果を論文として発表して頂き、震災復興や新興国の近未来に貢献することを目的として、本特集号（2013 年 6 月号）を企画致しました。多くの皆様からの御投稿をお待ちしております。

1. 対象分野

信頼性技術、省電力技術、経済化技術、セキュリティ技術、多様化技術、IP ネットワーク、モバイルネットワーク、アドホックネットワーク、ソーシャルネットワーク、プライベートネットワーク（VPN）、新サービス提供技術、トラフィック制御、品質（QoS）制御、ふくそう制御、ネットワーク管理、リソース管理

2. 論文の執筆と取扱い

通常の一般論文と同一とし、論文は原則として刷り上がり8ページ以内とします。詳細は投稿のしおり http://www.ieice.org/jpn/shiori/cs_mokuji.html を御参照下さい。査読後の再提出期間が短縮される場合があることをあらかじめ御了承下さい。

3. 主なスケジュール

投稿締切：2012年10月1日（月）厳守
初回判定通知予定：2012年11月下旬頃
最終判定通知予定：2013年2月下旬頃
発行月：2013年6月号

4. 投稿方法

(A) 電子投稿

https://review.ieice.org/regist_j.aspx にアクセスし、投稿原稿のPDFファイルと編集用データを登録して下さい。登録後に作成される投稿者チェックリスト・著作権譲渡書を投稿締切日までに学会事務局に到着するように送付して下さい。

【注意】登録時点で原稿のアップロードが困難な場合、「郵送による投稿」を選択し、一旦登録を完了させて下さい。連絡先メールアドレスにメール（Notification of completion for Temporary Registration）が送信されますので、メール内に記載のURLから「仮登録情報の修正/削除、電子投稿（原稿のアップロード）画面」にアクセスして下さい。表示される画面から原稿のアップロードができますので、必ず投稿締切日までに原稿をアップロードして下さい。

(B) 郵送

https://review.ieice.org/regist_j.aspx にアクセスし、投稿論文データを登録して下さい。投稿者チェックリスト、著作権譲渡書、投稿原稿、編集用データを保存したメディアを投稿締切日までに学会事務局に到着するように郵送して下さい。

郵送物送付先：

一般社団法人電子情報通信学会編集出版部論文課
〒105-0011 港区芝公園3-5-8 機械振興会館

5. 特集編集委員会

編集委員長 鈴木 光（NTTコミュニケーションズ）
編集幹事 石田賢治（広島市大）、船越裕介（NTT）
編集委員 阿多信吾（阪市大）、石橋孝一（三菱電機）、井戸上彰（KDDI研）、川原憲治（九工大）、橋 拓至（福井大）、田中亮一（日立）、中村信之（OKI）、流田理一郎（ATR）、松澤茂雄（東芝）、村瀬 勉（NEC）

6. 連絡先

船越裕介
NTT サービスインテグレーション研究所
次世代ネットワーク方式SEプロジェクト
〒1180-8585 武蔵野市緑町3-9-11
TEL [0422] 59-7839, E-mail : in-wb2013@m.ieice.org

——次世代セルラシステムのための

ヘテロジニアスネットワーク小特集号

（英文論文誌B）論文募集——

次世代セルラシステムのための
ヘテロジニアスネットワーク小特集編集委員会

近年、新世代無線デバイスの登場等に後押しされ、特にホットスポットや屋内環境においてデータトラヒックの爆発的増大が起

きています。このような膨大なトラヒックを低コストで収容するために、リレー局や分散アンテナ、ピコセル・フェムトセルを従来のマクロセルラシステムにオーバレイするヘテロジニアスネットワークへの注目が集まっています。ヘテロジニアスネットワークの実現には、従来のセルラシステムにない新しい無線通信技術や信号処理が必要とされています。例えば、ヘテロジニアスネットワークにより新たに生じる干渉のコーディネーションや回避、キャンセル技術が挙げられます。また、ヘテロジニアスネットワークではノード間での分散制御及び自動制御が望まれます。このような、ヘテロジニアスネットワークで新たに生じる課題を解決する最新技術を広く内外から集め、今後の研究開発を促進する目的で本特集号（平成25年6月号掲載）を企画致します。

1. 対象分野

次世代セルラシステムのためのヘテロジニアスネットワークに関する以下の分野を対象とします。

- ・ヘテロジニアスネットワークにおける上下リンクの物理/MAC層方式・構成
- ・ヘテロジニアスネットワークにおける干渉コーディネーション、干渉回避・キャンセル技術
- ・ヘテロジニアスネットワークにおける分散無線リソース・電力割当
- ・フェムト・ピコセルにおける無線アクセス制御
- ・ヘテロジニアスネットワークにおけるリレー伝送
- ・ヘテロジニアスネットワークにおける省電力化技術
- ・ヘテロジニアスネットワークにおけるモビリティサポート、接続セル選択、ハンドオーバ
- ・ヘテロジニアスネットワークにおけるセルフオーガナイゼーションネットワーク

2. 論文の執筆と取扱い

通常の英文論文と同一とします。ページ数は、原則として、刷り上がり8ページを標準とします（レター論文の投稿は受け付けておりません）。標準ページ数を超えると、掲載別刷代が急に高くなりますので御注意下さい。詳細はInformation for Authors (http://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_cs.html) を御参照下さい。査読後の再提出期間（通常は60日）を短縮する場合があります。

3. 投稿方法

Webによる電子投稿のみ受け付けます。以下の手順で御投稿下さい。

手順1：https://review.ieice.org/regist_e.aspx から登録を行って下さい。初期投稿時に、編集可能な論文本体（TeX/Word）、図、著者の写真、biographyも投稿する必要があります。なお登録時には必ず“Type of Issue (Section)/Category of Transactions”で[Special-EB] Heterogeneous Networks for Future Cellular Systemsを選択して下さい。[Regular-EB]を決して選択しないで下さい。

手順2：登録時に生成される“Copyright Transfer and Page Charge Agreement”と“Confirmation Sheet of Manuscript Registration”を、論文投稿締切日までに下記送付先へ電子メール添付、FAX、郵送のいずれかの方法でお送り下さい。これらの書類が期日までに届かない場合、投稿が取下げになることがあります。

4. 論文投稿締切日 平成24年10月12日（金）必着

5. 投稿書類送付先及び問合せ先

須山 聡

東京工業大学大学院理工学研究科集積システム専攻
〒152-8550 目黒区大岡山 2-12-1 S3-49
TEL [03] 5734-3770, FAX [03] 5734-3770
E-mail: rcs_ac-hetnet@mail.ieice.org

6. 小特集編集委員会

委員長 樋口健一 (東京理科大)
幹事 Tony Q.S. Quek (Inst. for Infocomm Research), 須山 聡 (東工大)
委員 青木亜秀 (東芝), 浅井孝浩 (NTT ドコモ), 石井直人 (NEC), 衣斐信介 (阪大), 岡本英二 (名工大), 小西 聡 (KDDI 研), 田久 修 (信州大), 星野正幸 (パナソニック), 三上 学 (ソフトバンクモバイル), 山本高至 (京大), Wenyi Zhang (Univ. of Science and Tech. of China), Hung-Yu Wei (National Taiwan Univ.), Wei Peng (Tohoku Univ.)

7. 付記

- * 締切日を厳守して下さい。
- * 招待論文を含む全ての採録論文については掲載別刷代 (別刷 50 部含む) が必要となります。
- * 投稿に際しては、著者のうち少なくとも 1 名は本会会員でなければなりません。ただし招待論文に関してはこの限りではありません。必要な投稿資格を満たしていない著者からの投稿論文については、投稿を受け付けられないこととなりますので御注意下さい。入会の案内はこちらを御覧下さい。
<http://www.ieice.org/jpn/nyukai/susume.html>

——若手研究者のためのブラッシュアップ特集号 (和文論文誌 B) 論文募集——

若手研究者のためのブラッシュアップ特集編集委員会

日々発展し高度化する通信技術の世界で、日本の技術力を維持・発展させていくためには、学位取得や職場でのスキルアップを目指す若手研究者をバックアップしていくことが重要です。和文論文誌 B では昨年、若手研究者に論文執筆の契機を与え、和文論文誌がこれまで以上に若手研究者の活躍の場となるべく、若手研究者のための特集を企画したところ多くの反響を得ました。そこで、今年も和文論文誌 B 編集委員会の特別企画として、若手研究者による論文の特集号 (2013 年 7 月) を発行し、若手研究者に論文発表の場を提供することと致しました。

特集テーマは、技術分野を絞ることなく和文論文誌 B が対象とする技術全般を対象とし、論文の筆頭著者を 40 歳以下の若手研究者・学生に限定することにより、日本における研究開発活動をより活発化させられる人材の育成・拡充の一助となることを目指すものとします。

特に、優れた研究成果が得られているものの論文投稿の経験がない方、あるいは少ない方々には、是非、この機会を利用し論文発表されることを期待致します。多くの御投稿をお待ちしております。

1. 対象分野 (和文誌 B が対象としている全技術分野)

【技術領域：基盤】

電子通信エネルギー、伝送方式・機器

【技術領域：光】

光ファイバ、光ファイバ伝送

【技術領域：ネットワーク】

ネットワークシステム、ネットワーク、インターネット、ネッ

論文特集号原稿募集

トワーク管理・オペレーション

【技術領域：無線】

アンテナ・伝搬、電磁環境・EMC、無線通信技術、地上無線通信、放送技術、衛星通信

【技術領域：無線システム】

計測、探査、航行・誘導・制御方式、宇宙利用システム

【技術領域：マルチメディアシステム】

マルチメディアシステム

2. 論文の執筆と取扱い

通常の一般論文と同一とし、論文は原則として刷り上がり 8 ページ以内とします。詳細は投稿のしおり http://www.ieice.org/jpn/shiori/cs_mokuji.html を御参照下さい。査読後の再提出期間が短縮される場合があることをあらかじめ御了承下さい。

3. 主なスケジュール

投稿締切：2012 年 10 月 30 日 (火) 厳守

初回判定通知予定：2012 年 12 月下旬頃

最終判定通知予定：2013 年 3 月下旬頃

発行月：2013 年 7 月号

4. 投稿方法

(A) 電子投稿

https://review.ieice.org/regist_j.aspx にアクセスし、投稿原稿の PDF ファイルと編集用データを登録して下さい。登録後に作成される投稿者チェックリスト・著作権譲渡書を投稿締切日までに学会事務局に到着するように送付して下さい。

【注意】登録時点で原稿のアップロードが困難な場合、「郵送による投稿」を選択し、一旦登録を完了させて下さい。連絡先メールアドレスにメール (Notification of completion for Temporary Registration) が送信されますので、メール内に記載の URL から「仮登録情報の修正/削除、電子投稿 (原稿のアップロード) 画面」にアクセスして下さい。表示される画面から原稿のアップロードができますので、必ず投稿締切日までに原稿をアップロードして下さい。

(B) 郵送

https://review.ieice.org/regist_j.aspx にアクセスし、投稿論文データを登録して下さい。投稿者チェックリスト、著作権譲渡書、投稿原稿、編集用データを保存したメディアを投稿締切日までに学会事務局に到着するように郵送して下さい。

郵送物送付先：

一般社団法人電子情報通信学会編集出版部論文課

〒105-0011 港区芝公園 3-5-8 機械振興会館

5. 特集編集委員会

委員長 高橋応明 (千葉大)

幹事 佐波孝彦 (千葉工大)

委員 通信ソサイエティ和文論文誌編集委員

6. 問合せ先

佐波孝彦 (千葉工大)

TEL [047] 478-0532, E-mail: saba@m.ieice.org

——集積光デバイス技術小特集号

(英文論文誌 C) 論文募集——

集積光デバイス技術小特集編集委員会

集積光デバイス技術の進展は目覚ましく、現在も急速に増加を続ける通信トラヒックを支える大きな原動力となっています。光通信の適用範囲は、超高速性と省電力伝送の要請から拡大を続け

ており、従来の長距離の光ファイバ伝送だけにとどまらず、メタル伝送が中心とされていた、通信機器のボード間・チップ間からLSIのチップ内といった極短距離の通信までをターゲットとするようになってきています。更にこれらの技術は、光記録、医療や環境センシングなど、多岐にわたる応用分野を有しています。

本小特集号では、重要性を増している、これらの光集積デバイス及びその周辺技術（光集積回路、光電子融合集積回路、小形モジュール化技術、高周波実装）に焦点を当て、集積光デバイス技術の最新成果を紹介し、この分野の研究開発を一層進展させることを目的として、「集積光デバイス技術」小特集号（平成25年7月号）を企画致しました。国際会議 OECC2012 でのインパクトの高い論文を含め、光集積デバイス・モジュール・プラットフォーム技術に関する論文を募集します。

1. 対象分野

集積光デバイスに関する論文を広く募集します。主な分野は以下のとおりですが、これに限定するものではありません。

光電子集積回路／集積技術／ハイブリッド実装／光モジュール／光インタコネクション／光スイッチ・変調器／フォトニック結晶／シリコンフォトニクス／光制御／光計測

2. 論文の執筆と取扱い

通常の英文論文と同一とします。ページ数は、原則として刷り上がり8ページを標準とします（本特集では Brief Paper は募集しません）。標準ページ数を超えると、掲載別刷代が急に高くなりますので御注意下さい。詳細は Information for Authors (http://www.ieice.org/eng/shiori/mokuj_i_es.html) を御参照下さい。査読後の再提出期間（通常は60日）を短縮する場合があります。

3. 投稿方法

Webによる電子投稿のみ受け付けます。以下の手順で御投稿下さい。

手順1：https://review.ieice.org/regist_e.aspx から登録を行って下さい。初期投稿時に、編集可能な論文本体（TeX/Word）、図、著者の写真、biographyも投稿する必要があります。なお登録時には必ず、掲載希望の分冊（[Special-EC] Special Section on Recent Advances in Integrated Photonic Devices）を選択して下さい。[Regular-EC] を決して選択しないで下さい。

手順2：登録時に生成される“Copyright Transfer and Page Charge Agreement”と“Confirmation Sheet of Manuscript Registration”を、論文投稿締切日までに下記送付先へ電子メール添付、FAX、郵送のいずれかの方法でお送り下さい。これらの書類が期日までに届かない場合、投稿が取下げになることがあります。

4. 論文投稿締切日 平成24年10月31日（水）必着

5. 投稿書類送付先及び問合せ先

植之原裕行
東京工業大学精密工学研究所
〒226-8503 横浜市緑区長津田町 4259 R2-43
TEL [045] 924-5038, FAX [045] 924-5038
E-mail : uenohara.h.aa@m.titech.ac.jp

6. 小特集編集委員会

委員長 清水健男（古河電工）
幹事 植之原裕行（東工大）
委員 橋本俊和（NTT）、小川憲介（フジクラ）、中川剛二（富士通研）、加藤友章（NEC）、佐川みすず（日立）、阿久津剛史（古河電工）、西川智志（三菱電機）、宮本

智之（東工大）、福田浩（NTT）、賀川昌俊（OKI）、石川光映（NTT）

7. 付記

- *締切日を厳守して下さい。
- *招待論文を含む全ての採録論文については掲載別刷代（別刷50部含む）が必要となります。
- *投稿に際しては、著者のうち少なくとも1名は本会会員でなければなりません。ただし招待論文に関してはこの限りではありません。必要な投稿資格を満たしていない著者からの投稿論文については、投稿を受け付けないこととなりますので御注意下さい。入会の案内はこちらを御覧下さい。
<http://www.ieice.org/jpn/nyukai/susume.html>

——インターネット技術とその応用特集号

（和文論文誌D）論文募集——

インターネット技術とその応用特集編集委員会

インターネットは、様々なサービスや活動の基盤として、これまで力強く発展してきました。更には、昨今多発する大規模災害等において重要なライフラインの役割も果たすなど、なくてはならない社会基盤としての地位を確立しています。その一方で、例えば最近のスマートフォンに代表されるサービスの新たな多様化／高機能化や予測不能な外部挙動による破綻を回避し、豊かな社会生活や新しい産業の創出に向けた社会システム基盤としての責務を果たすため、従来の枠組に捉われない新たな安定性・発展性・経済性についての取組みも重要な課題になっています。インターネットを持続的に発展させ、これら社会的課題に応えることを目的として、インターネット技術とその応用に関連する最新のアイデアや取組み／成果を集め、広く共有して議論すべく「インターネット技術とその応用」特集（平成25年6月号）を企画致しました。皆様からの積極的な御投稿をお願い致します。

1. 対象分野

以下のようなテーマを含め、これらに限らず広くインターネット技術とその応用に関連する分野の論文を積極的に御投稿頂きたく、期待しております。

- ・インターネットの計測・分析・評価と管理
- ・ネットワーク構築・運用・管理手法
- ・ネットワークアーキテクチャ・プロトコルと制御
- ・モバイル／ユビキタス／アドホックネットワーク技術
- ・オーバーレイネットワーク技術とアプリケーション
- ・ネットワークエージェント技術
- ・コラボレーション技術、グループウェア、テレプレゼンス
- ・分散・グリッド・クラウドコンピューティング技術、仮想化技術
- ・リッチクライアント、マッシュアップ技術
- ・デジタルコンテンツ流通基盤としてのインターネット関連技術
- ・マルチメディア通信技術、QoS管理技術
- ・インターネットにおけるセキュリティ対策技術と運用
- ・認証基盤技術とその応用
- ・インターネットを活用した環境保護
- ・教育、医療、福祉、災害対策、地球環境保全などの社会的活動に関わるインターネット活用手法
- ・流通／経済インフラとしてのインターネット活用手法
- ・インターネットの応用と情報倫理

- ・その他インターネット技術とその応用に関連する分野

2. 論文の執筆と取扱い

- ・論文（通常の一般論文）及びサーベイ論文を募集致します。それぞれのページ数など詳細な規定に関しては「和文論文誌投稿のしおり」http://www.ieice.org/jpn/shiori/iss_mokuji.htmlを御参照下さい。特にサーベイ論文に関しては、積極的な御投稿をお待ちしております。
- ・査読後の再提出期間が短縮される場合があること、また採録論文数が多い場合には、一般論文として掲載される場合があることをあらかじめ御了承下さい。

3. 投稿方法

【電子投稿】 下記 URL から登録を行って下さい。本特集号では電子投稿のみ受け付けます。投稿原稿の PDF ファイルと編集用電子ファイルを登録して下さい。仮登録後に作成される投稿者チェックリスト・著作権譲渡書を投稿締切日までに学会事務局に到着するように送付して下さい。

https://review.ieice.org/regist_j.aspx

【注意】 登録時点で原稿のアップロードが困難な場合、「郵送による投稿」を選択し、一旦登録を完了させて下さい。連絡先メールアドレスにメール（Notification registration completion）が送信されます。メール内に記載の URL にアクセスし、「電子投稿（ファイルアップロード）」から必ず投稿締切日までに原稿をアップロードして下さい。

送付先

〒105-0011 港区芝公園 3-5-8 機械振興会館
一般社団法人電子情報通信学会編集出版部論文課
FAX [03] 3433-6616, E-mail: wabun-dl@ieice.org

4. 投稿締切日 平成 24 年 9 月 3 日（月）厳守

5. 問合せ先

山本 寛
長岡技術科学大学電気系
TEL [0258] 47-9510, FAX [0258] 47-9521
E-mail: ia-jd2012-sec@mail.ieice.org

6. 特集編集委員会

委員長 地引昌弘（NICT）
幹事 山本 寛（長岡技科大）、吉田健一（筑波大）
委員 秋山豊和（京都産業大）、池永全志（九工大）、石橋圭介（NTT）、宇式一雅（富士通研）、岡村耕二（九大）、片山喜章（名工大）、金岡 晃（筑波大）、敷田幹文（北陸先端大）、島岡政基（セコム）、菅沼拓夫（東北大）、高倉弘喜（名大）、中山雅哉（東大）、橋本浩二（岩手県立大）

本会発行図書案内

通信ネットワークの信頼性評価技術が分かる！

実践 通信ネットワークの信頼性評価技術 ——基礎から R を用いたプログラミングまで——

船越裕介 著

A5 判上製 定価 3,360 円(税込)

通信ネットワークの信頼性の確保は、通信事業者にとって重要課題である。これは、信頼性を適切に測る技術と表裏一体の関係にある。信頼性工学はこのような分野を扱うが、従来の方法では運用中に装置台数やユーザ数が変動するという条件に対応できるとは限らないため、通信ネットワークの信頼性評価にそのまま適用することが困難な場合がある。本書では、通信ネットワークの信頼性を、フリーの統計解析ソフトウェア R を用いて評価する方法を解説している。具体的には、まず信頼性工学の概略を説明し、次いで R を用いた実際の評価方法を、サンプルコードを交えて詳細に説明する。通信ネットワークの保守運用に携わる企業の方々だけでなく、信頼性工学を学ぶ大学生にとっても格好の書である。なお、本書は通信ネットワークのみならず、広く社会基盤の信頼性評価にも応用が可能である。

《内容目次》信頼性工学／信頼性評価の基礎技術／通信ネットワークの信頼性評価／通信ネットワークの信頼性管理

〒105-0011 東京都港区芝公園 3 丁目 5 番 8 号 機械振興会館内 振替口座 00120-0-35300

TEL [03] 3433-6691(代) FAX [03] 3433-6659 E-mail: kaiin@ieice.org

正員、学生員等の個人会員の方の注文を承ります。2 割引・送本費 500 円 上記番号で御注文下さい。

一般社団法人 **電子情報通信学会**